米国 UCSF での腫瘍登録職員研修会参加報告

小山幸次郎
放射線影響研究所（広島）疫学部

1998 年 3 月 30 日から 4 月 10 日まで、サンフランシスコで開催された UCSF（カリフォルニア州立大学サンフランシスコ校）主催の"Training Programs for Personnel of Cancer Data Systems"に参加し、研修する機会を得ましたので、ご報告いたします。

参加者は男性 3 人、女性 26 人。大半がカリフォルニア州、あるいはその近隣の州からの参加者でしたが、他にもハワイ、アラスカ、東海岸からも参加していました。私とバハマからの女性が外国からの参加者でした。がん登録実務のかなりのベテラン選手とお見受けする参加者もいれば、逆に、あまり経験のないような人もいるようでした（その後、参加者は講義初日に行なわれた Assessment Exam の結果で 3 つのグループに分けられ、講義前半最終日にグループ別補充講義を受けました。私は一番出来の悪いクラスでした）。*ほとんどの受講生が国家試験レベルのCTR (Certified Tumor Registrar) を目指しているとのことです。*

プログラムは Part 1、2 に分かれます。Part 1 は**登録実務**に関するもので、Case Finding、Abstraction、Staging などの講義が、Part 2 は**データの活用方法**（罹患率・死亡率、生存率など）についての演習が主体です。他に主な臓器のがんについて、専門医師からの講義があります。それぞれのパートの前後で試験がありましたが、Part1 前の試験の結果は 47 点とワーストグループで、自分がいかに基本的なことを知らないかを思い知らされました。

Part 1 の中で重視していていたのが、Staging と Abstraction でした。Staging は AJCC (American Joint Commission on Cancer) による TNM 分類、SEER Summary Stage、SEER Extent of Disease (EOD) の 3 通りを Staging するよう指導されました。前 2 者は見慣れたもので、それほど難しくはありませんでしたが、EOD はなかなか厄介でした。Abstraction はさらに面倒で、医療記録から必要情報を抜き出し、Staging の後、Surgery Codes という項目を記入します。ご存知の方もいると思いますが、悪性腫瘍に対する手術方法をコーディングするもので、1) 原発巣、2) 所属リンパ節、3) 遠隔臓器･遠位リンパ節に対する手術、4) 切除した所属リンパ節の数を記載します。手術コードはがんの種類ごとに細分化され、American College of Surgeon が発行する"Standards of the Commission on Cancer, Vol. II: Registry Operations and Data Standards (ROADS)"という厚いマニュアルにしたがって記入します。*Part 2* の方は、通常の解析と同じで、特に目新しいものはなかったように思います。

講義はオーバーヘッドプロジェクターを使用します。ここで示されたインフォメーションはすべてプリント化され、handout として事前に配布されていますので（プリント量は非常に多い）、ノートを取るのに一生懸命という作業はなく、だいぶ楽だったと思います。参加者は 1 つのラウンドテーブルに 4–6 人ずつ座り、アメリカでの講義らしくいつも質問、ジョークが飛び、活気のあるものでした。なお、handout の中には"Bibliography"として、がん登録・がん疫学に関する主な出版物やインターネットのウェッブサイトも紹介されています。

講義は朝 8 時半から夕方 4 時半までびっしりでしたが、特に宿題などはなかったので、講義が終わると**チャイナタウンのホテル**にカバンを置いて、ダウンタウンを歩き回りました。受講生のほとんどは会場周辺のホテルに宿泊していたようですが、私はバスで 20 分かけて通学し、サンフランシスコの急坂を何度も体験することができました（バスは$15 の Weekly Pass で乗り放題です）。ホテルは UCSF で斡旋してくれますが、私は観光案内などをみて自分で予約しました。私が宿泊したホテルの方が約 30 ドル/日は安く、2 週間では相当の額になると思います。

最終日の前日の昼休みには外国からの参加者（私とバハマからの女性）が自分の国や**登録室の紹介**をしました。事前に用意した 10 枚程度のスライドで広島市腫瘍登録、原爆の影響に関する放影研の調査結果、「原爆ドーム」、「厳島神社」を紹介しましたが、バハマの女性は、スライドにするのはコストが高すぎてできない、と絵はがきそのものを持参していました。このあたりにお国の事情の違いというものを感じたものです。

私がこの研修に参加した時は、私自身、がん登録の実際に携わって 1 年と少しという時期でした。それまでの期間は、**登録実務の実際**を深く理解しておらず、罹患率・死亡率の算出などといった結果のみを表面的に追っかけていただけのような気がします。そういう意味で、私のような人間がこのような研修に参加できたことは非常に有意義であったと感じています。そして、私の立場を理解してくださり、研修を勧めてくださった当研究所疫学部部長の馬淵部長に感謝いたしますとともに、研修で得たものを今後のがん登録の運営に役立てたいと思っています。

（本研修の照会先については P.2 下へ続く）